

編集後記

本号の表紙に民博の展示場の写真が含まれていることに、お気づきの読者はいただろうか。アフリカ展示の「歴史を掘り起こす」セクションにある、奴隷貿易という展示の写真だ。特集「奴隷展示は問う」は、決して他所事や他人事ではない。民博にある、誰かの足に実際に付けられていたのかもしれない錆ついた足かせと鎖。それらが時空を超えて発する無言のメッセージに、わたしたちは何を思い、子どもたちに何をどう伝えるのか。本特集がそうしたことを考えるきっかけや手掛かりになればと思う。

奴隷制のその後は、図らずも本号のシネ倶楽部 M「100年前のボクシング」が引き受けてくれる。黒人初の世界チャンピオン誕生後、白人のチャンピオンが20年以上続いたのは、黒人ボクサーに挑戦するチャンスが与えられなかったからだが、著者によれば、それは白人チャンピオンが黒人との対戦を拒否できるカラーラインという差別制度が、ここにも存在したからだという。

つくられた展示や映画から文化や歴史を語る意義に眼を開かされる論稿が目白押しとなった。他方、民博に奉職する「わたしたち」とっては、そうした展示や（民族誌）映画をつくる側にもなる責任を再認識させられる機会となった。（南真木人）

- 表紙：上から時計回りに、
 1: マージーサイド海事博物館の正面にあるプレート（撮影：井野瀬久美恵、2012年）
 2: ガンビア・クンタキンテ島へ向かう波止場に据え置かれた像（アルブレタ、撮影：鈴木英明、2018年）
 3: ブラジル・ハウスの中庭の壁に描かれたグラフィティ（撮影：鈴木茂、2018年）
 4: 民博のアフリカ展示にある「奴隷貿易」のコーナー
 5: スリナム博物館（撮影：吉田信、2005年）

次号の予告

特集

「メキシコのアルテ・ポプラル」（仮）

みんなぱくをもっと楽しみたい方のために 国立民族学博物館友の会のご案内

友の会は、みんなぱくの活動を支援し、博物館を楽しく積極的に活用するためにつくられました。

毎月『月刊みんなぱく』をお届けするほか、さまざまなサービスをご用意しております。

維持会員・正会員

『月刊みんなぱく』の送付／友の会機関誌『季刊民族学』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加／研究者同行の国内外研修旅行への参加 など

ミュージアム会員

『月刊みんなぱく』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加 など

繰り返し入館できる**みんなぱくフリーパス**や、学校・学部単位で利用できる**キャンパスメンバーズ**など各種会員種別もごさいます。目的にあわせてご利用ください。

詳細は、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
 (電話 06-6877-8893 / 平日9:00～17:00)



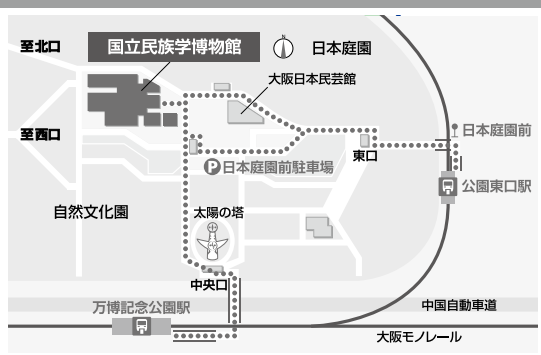
月刊みんなぱく 2019年9月号

第43巻第9号通巻第504号 2019年9月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
 電話 06-6876-2151

発行人 園田直子
 編集委員 南真木人（編集長） 上羽陽子 齋藤晃
 菅瀬晶子 三島禎子 吉岡乾
 デザイン 宮谷一欒 長岡綾子
 制作・協力 一般財団法人 千里文化財団
 印刷 能登印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
 *本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんなぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなぱくフェイスブック

<https://www.facebook.com/MINPAKUofficial>

みんなぱくツイッター

<https://twitter.com/MINPAKUofficial>

みんなぱくインスタグラム

<https://www.instagram.com/MINPAKUofficial/>

みんなぱくYouTube

<https://www.youtube.com/user/MINPAKUofficial>

